



◎目指す学校の目標を実現するための、基礎となる条件

★子どもたちの可能性を最大にする1年間の学級・専科経営→「子どもたちと共に創り上げていく」学級・専科づくり
「子どもたち一人一人が安心して自分の意見を言え、失敗を恐れずに挑戦できる環境づくり」
すなわち「心理的安全性」を重視した学級づくり

★基礎学力形成

→基礎学力形成が確実になされていれば、必ずそこで子どもたちの人間的、人格的向上も図れる。
→基礎学力形成は、真実と虚偽、正と否、深と浅、などを論理的に知的に峻別していく。
→人間としての望ましい成長、進歩、向上を促す営為である。

★自律→自分で考えて、自身をコントロールできる。子ども自身で調整を行ったり、問題を解決したりする→自律的態度

→教師の指導の下に一つ一つ、子どもに染み込ませて身に付けていくもの
（気持ちのいい挨拶ができる、返事がきちんとできる、身の回りの整理ができる、忘れ物をしない、友達となかよくする、最後まできちんとやり通す、しゃべるのを我慢する）

★子どもたちに「よい習慣」をつける

※規範意識・学習・生活習慣を家庭と連携して身に付ける→しつけ3原則→返事・あいさつ・いすをしまう・くつをそろえる
「心が変われば態度が変わる 態度が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる」
「習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる 運命が変われば人生が変わる」
「どうぞ」（思いやり）と「ありがとう」（感謝）の声掛け

★特別支援教育の充実 「特別支援が必要な子どもが居心地のよい学校は、どの子どもにとっても心地よい学校である」

★いじめ防止基本方針の徹底

「いじめ」には、次の2つのシステムが必要である。

1 いじめ発見システム→「触診」「問診」「精密検査」の三段階。

「机を離す」「発表をひやかす」など学級の様子から教師が判断する触診。アンケートを通していじめの有無を判断する問診。
例えば「一人ぼっちの子調査」といった特定の観点に沿った具体的調査を実施する精密検査。

2 いじめ対処システム

いじめを発見したら、対処しなければならない。

①解決までの危機管理 ②深刻化する前の教室での危機管理 ③いじめの事実記録 ④本人、保護者を安心させる危機管理
2つのシステムが機能することが、いじめから命を守り、いじめにかかわる人の人生を守ることにつながる。

★校内研究 研究テーマ（仮題）「主体的・対話的で深い学び」の実装ができる授業力の向上」